

高齢者の肺炎球菌ワクチンの接種

平成26年10月から、65歳以上の高齢者を対象とする肺炎球菌ワクチンが、定期接種となりました。このワクチンを接種すると、肺炎の重症化を防ぐことができます。初回の接種に限り、公的助成の対象となっています。

平成27年6月末に、本市の保健センターから、「平成27年度高齢者肺炎球菌定期接種のお知らせ」のはがきを、公的助成（100歳までの5歳階級別）の対象者に送付しています。

ワクチン接種は、3月31日（木）まで、市立病院でも接種できます。この機会に、肺炎球菌感染による肺炎リスクに備えてください。

◇定期接種用ワクチンは、「ニューモバックスNP」

肺炎球菌には、93個の型がありますが、肺炎球菌が引き起こす成人の重症肺炎の約7割は、その中の23種類の菌による感染が原因です。

「ニューモバックスNP（23価肺炎球菌ワクチン）」は、その23種類の菌に由来する多糖類物（23価）から造られた製品です。

◇ワクチン接種の予約

市立病院でワクチン接種をする場合は、まず平日の午後2時～4時30分の間に、予約センター（☎53・7188）へ電話をして、接種日時（毎週月曜日、午後2時30分～4時）を事前に予約してください。

本市の保健センターから送付している、「平成27年度高齢者肺炎球菌定期接種のお知らせ」のはがきが届いた人の接種費用は2,000円です。

なお、すでに「ニューモバックスNP」を接種したことがある人は、公的助成の対象となりません。

◇接種前に気をつけること

来院後、ワクチンの接種前に、体調が普段と変わらないかどうかについて、当院医師が尋ねます。

接種直前の体温が37.5℃以上であったり、熱の出る病気から回復したばかりであったり、また、これから身体の具合が悪くなるかもしれないような状態の場合には、別の日に予約を取り直してもらうように勧めることがあります。

◇接種後に気をつけること

ごくまれなことです。接種後に血圧が下がったり、蕁麻疹（じんましん）が出たりすることがあります。

接種してから30分間は病院の中で過ごして、気分が悪くなったり、身体のあちこちがかゆくなったりしないかどうか、気を付けてください。身体の変化に気付いたら、院内の医師・看護師に遠慮なく申し出てください。

接種当日の入浴は可能ですが、大量の飲酒や激しい運動は控えてください。

接種後、針を刺した部位周辺に鈍い痛みが残ったり、少し腫れたり赤くなったとしても、接種後3日も経過するころには治まってきます。接種部位の変化が、日を追って小さくなっていけば、心配はありません。

〔臨床検査科部長 山下慶三〕